

# 日建連における 建築BIMの取組み

2025.12.24



一般社団法人 日本建設業連合会  
JFCC JAPAN FEDERATION OF CONSTRUCTION CONTRACTORS

建築本部 建築BIM合同会議

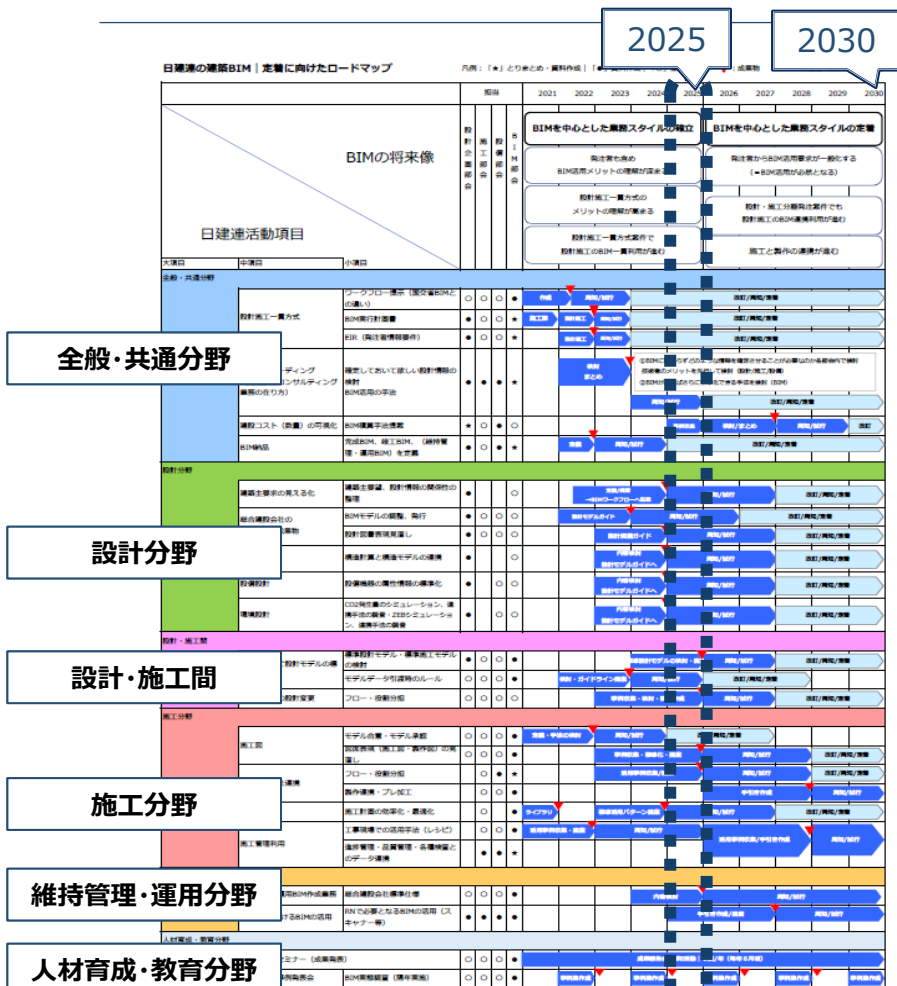
建築生産委員会 BIM部会

# はじめに | 日建連の建築BIMロードマップ

日建連の建築BIM | 定着に向けたロードマップ (2021年6月)

目標 ▷ 2025年：業務スタイルの確立 | 2030年：業務スタイルの定着

## 定着に向けたロードマップ



▲ 日建連のロードマップ

## 主な成果物 (公開日)

文字は今回のご紹介内容

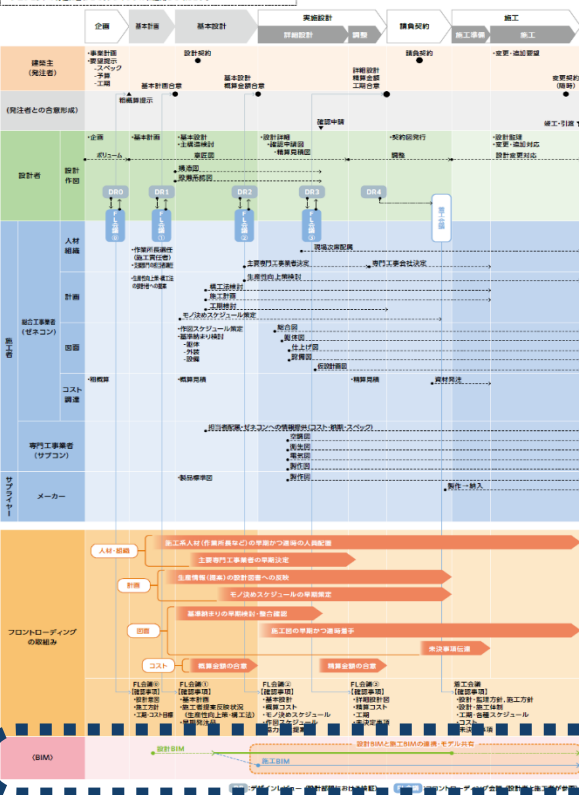
建築 BIM (設計・施工・ 維持管理・ 運用)		① 設計施工一貫方式におけるBIMの ワークフロー (最終改訂2024.6) ▷ 設計段階における設計者と施工 者の共創 (例)
設計 BIM		● 設計BIMモデルガイド (2024.6)
施工 BIM		● 施工BIMのスタイル (2021.3) ② 施工BIMの活用ガイド (第4版： 2026.3に公開予定) ③ 鉄骨工事における設計者と施工者の 共創 (例) (2026.3に公開予定) ④ 設備工事における設計者と施工者の 共創 (例) (2026.6に公開予定)
人材 教育		⑤ 日建連BIMセミナー (2025.6) ● 施工BIMのインパクト (2025.12) ⑥ 日建連会員企業BIM動向調査 (2025年度) ● 施工BIM事例集2026 (2026年度に 公開予定)

# ① 設計段階 | 設計者と施工者の共創 (例)

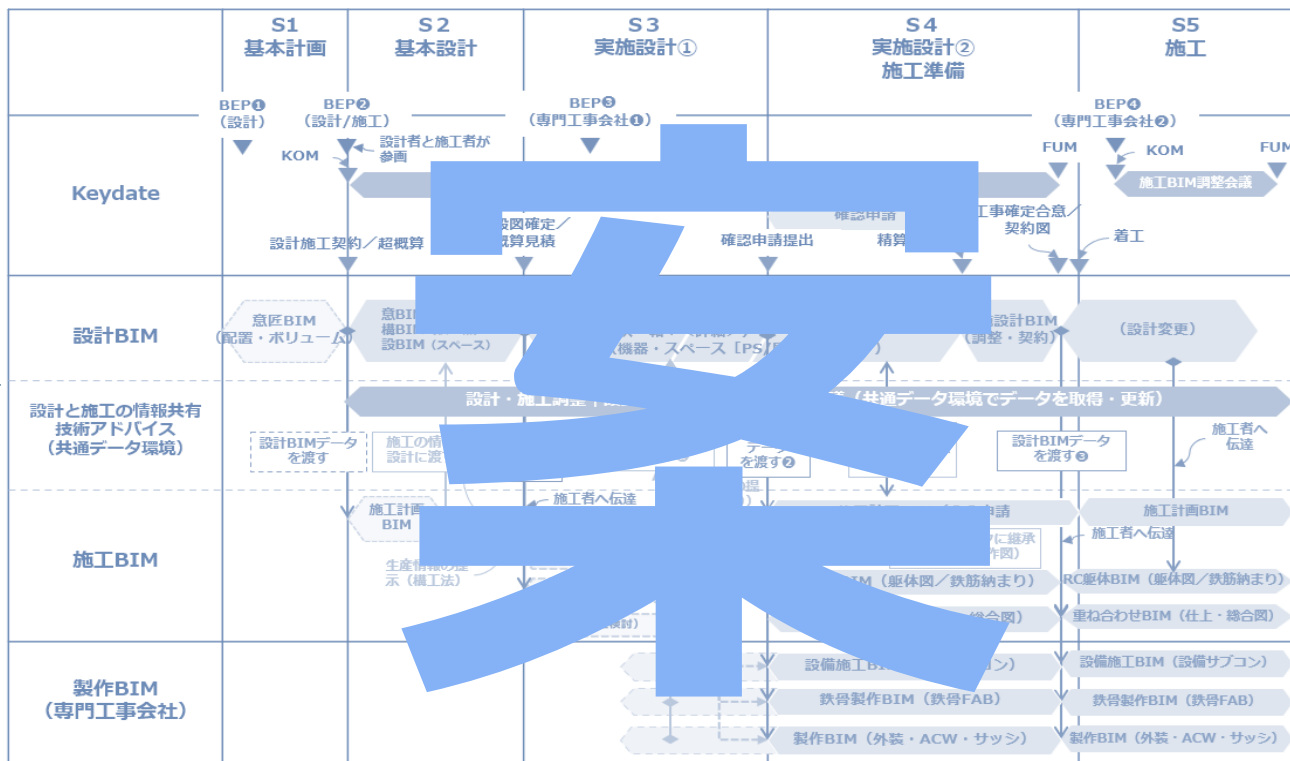
設計段階で設計者と施工者がBIMデータを連携するプロジェクトが増えています。一方でプロジェクトの特性により多様なワークフローが存在しているのも事実です。そのため、今回はその一例を示すことにしました。

プロジェクトの特性に合わせて「BEP」を作成し、お互いが作業前に合意しておくことが肝要

フロントローディングの流れ フロー図(詳細版)  
このフロー図は、設計施工一貫プロジェクトにおけるフロントローディングの概略を示します。プロジェクトの特性やニーズに応じて、必ずこの通りである必要はありません。プロジェクトの特性に合わせて、アレンジメントも適用してください。



BIMによる設計部門と施工部門の共創 (例)



想定建物は、設計施工一貫方式 | S造 | 杭基礎 | 地下1階・地上10階 | 解体工事なし | 延床: 5,000m<sup>2</sup> | 設計・施工の工程は現状を簡略  
表中の ◯ はBIMを活用した場合を示す一例です

## ▲フロントローディングのワークフロー

図版出典 (左) : フロントローディングの手引き2019、日本建設業連合会、2019.7

図版出典 (右) : 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー (第4版) 素案、日本建設業連合会建築BIM合同会議、2025.11

## ▲設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー (素案)

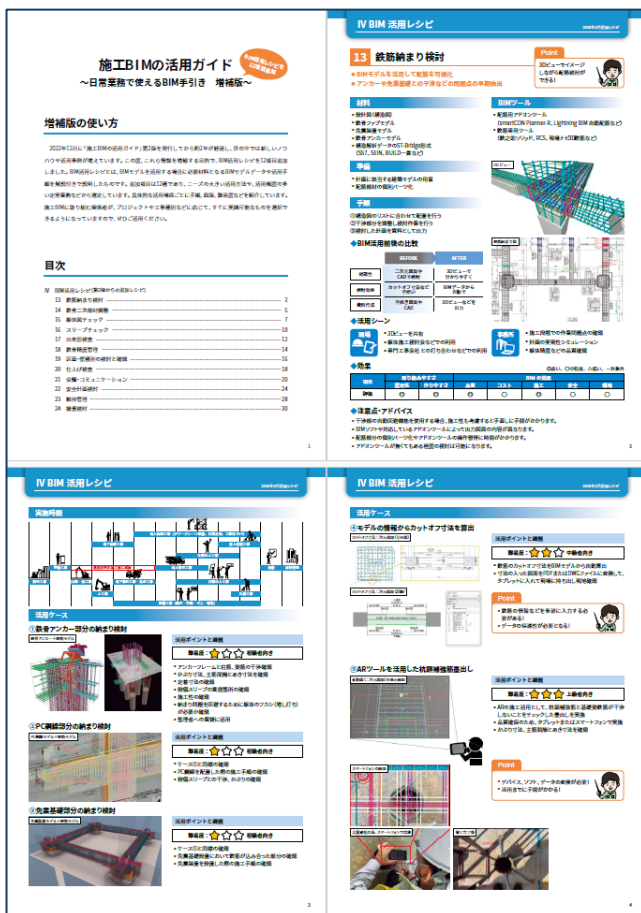
公開予定 : 2026年6月

※日建連BIM部会HP

## ② 24項目のBIM活用レシピを体系化

BIMの効果を今以上に享受するには「作成」したデータを「活用」することが望めます。生産現場での「活用」により、ノンBIMユーザーを含めた効果が期待できます。そのような視点から（第4版）をまとめています。

BIM「作成」するだけでなく、「作成」したデータを「活用」することにも触れる



▲ 増補版（第3版）2025.6公開



目次	
はじめに	1
目次、施工BIMの活用ガイド製作メンバー	2
本ガイドの使い方・要約	3
Ⅰ BIMモデル活用インデックス	4
Ⅱ 日常業務におけるBIMモデル活用	6
Ⅲ 目標設定シート（作業所編）	8
Ⅲ 目標設定シート（企業編）	10
Ⅳ BIM活用レシピ	12
01 振舞計画	12
02 測量	13
03 点群・重ね合わせ	14
04 杭芯管理	15
05 ICT連携連携	16
06 建築・設備重ね合わせ	17
07 干渉チェック	18
08 遠隔検査	19
09 設備検査（設備部会提供）	20
10 設備プレカセット（設備部会提供）	21
11 BIMパンフレット	22
12 設備・仕上げxR	23
おわりに	24

▲ （第2版）2022.12公開



【第4版の主な内容】

- ◎ （第2版）で掲載した内容を最新情報にアップデート
- ◎ （第3版）と（第2版）の活用レシピを統合

公開予定：2026年3月

※日建連BIM部会HP

# ③ 鉄骨工事 | 設計者と施工者の共創 (例)

①の解説で示した設計者と施工者が共創するワークフローに準拠して、**鉄骨工事**を題材としたワークフローを検討中です。ワークフローの中では、どのような生産情報がどのタイミングで確定すべきかも示します。

## 鉄骨工事におけるワークフローを整理 | 設計施工一貫方式を前提

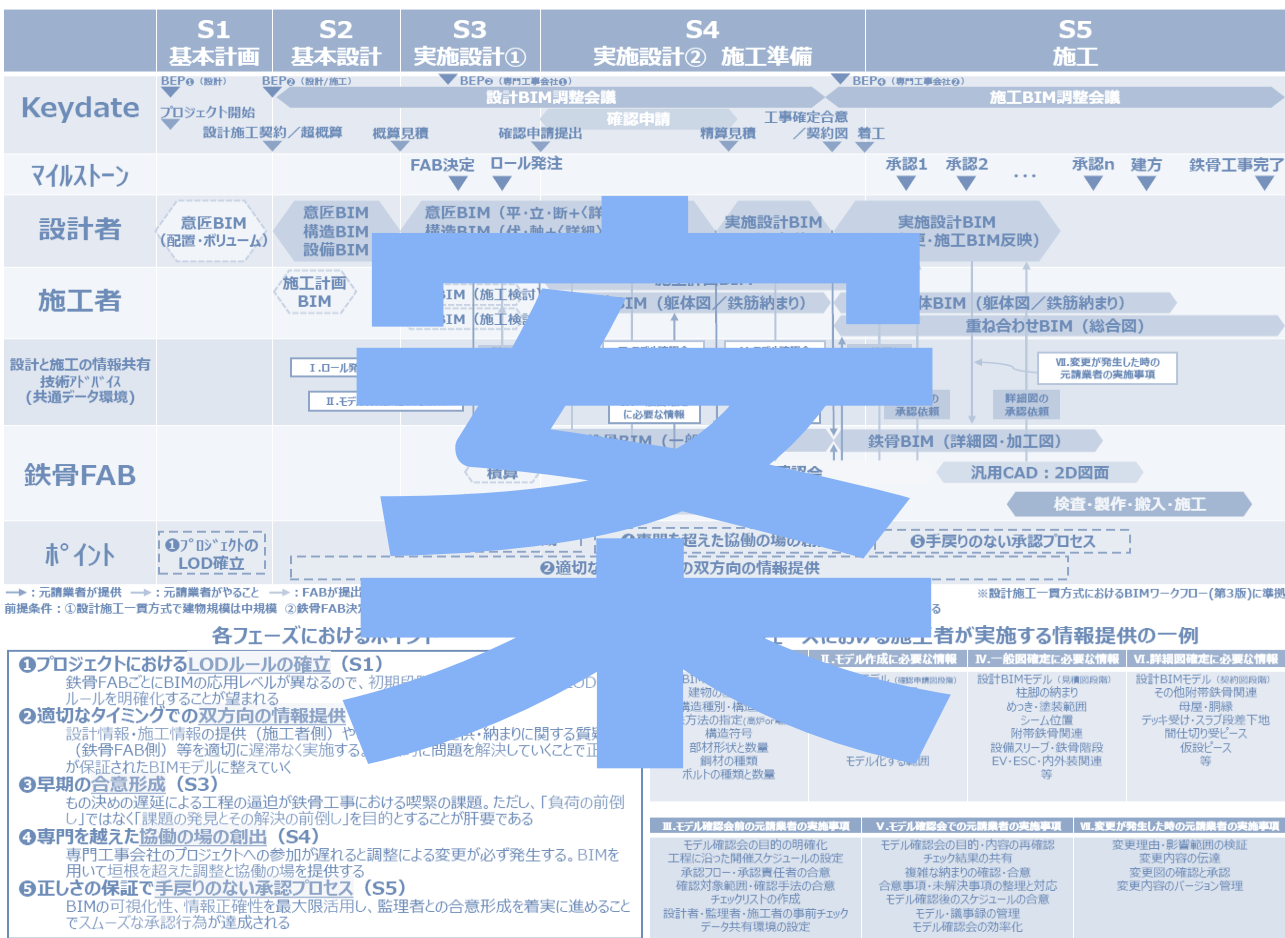
### 設計者と施工者の共創 (例) に準拠した鉄骨専門工事会社とのワークフロー (例)

#### 【ポイント】

- ◎ どのタイミングで確定した生産情報を連携するのかを例示
- ◎ プロジェクトの特性に合わせて「BEP」を作成し、作業前に関係者間で合意をすることが重要
- ◎ 他工種との調整 (すりあわせ) も同時進行であることが望まれる

公開予定 : 2026年3月

※日建連BIM部会HP



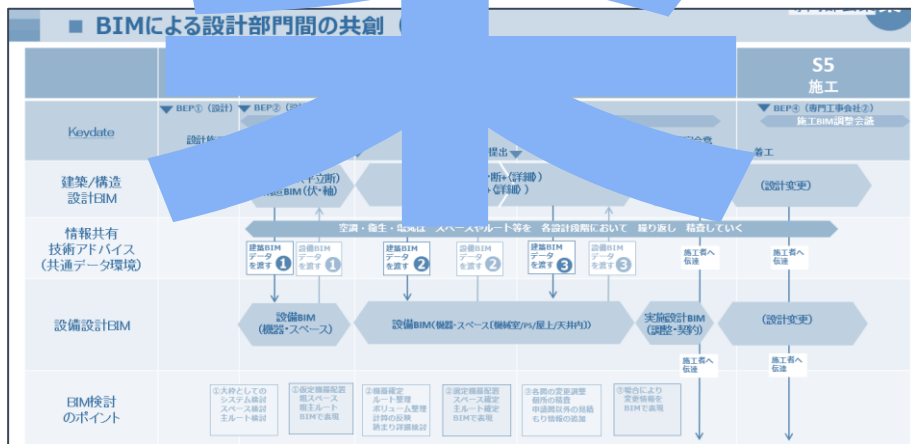
# ④ 設備工事 | 設計者と施工者の共創（例）

「BIMによる設計部門と施工部門の共創（例）」のワークフローに準拠して、設備設計/施工、建築/構造/設備間のワークフローを整理した上で、データ連携のポイントなどをまとめる予定です。

## 設備部門のワークフロー | 設備部門においてもワークフロー（例）を提示



▲ 設計施工一貫



▲ 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー（設計3部門のワークフローの例）

### ワークフローは2種類提示

- ◎ 設備部門から見た設計部門と施工部門の共創（例）
- ◎ 設備部門から見た設計3部門（意匠・構造・設備）の共創（例）

### ワークフローの視点（案）

- ◎ 設備モデルのあり方検討
- ◎ 設計/施工間のデータ連携のポイントと課題
- ◎ 設備設計/施工、建築/構造/設備間のワークフローとデータ連携（案）
- ◎ 設備のLOD/LOIについての検討

公開予定：2026年6月

※日建連BIM部会HP



# ⑤ 日建連BIMセミナー2025 | 事例発表会

BIM部会に参加している企業の事例発表会を開催しました（今回で4回目になります）。多くの参加者から「参考になった」と感想をいただきました。今後もみなさまのご意見を踏まえながら情報発信を進めます。

## 今年度は「施工BIMのスタイル2024」に掲載された各社の事例を説明



▲ 発表した事例が掲載された事例集2024

開催日時：2025年6月27日（金）  
開催内容：BIM部会参加19社の事例発表  
参加者：1,161名



浅沼組 吉川裕人 奥田大輔



鴻池組 伊野上太一 後藤賢彦



熊谷組 菅野葵



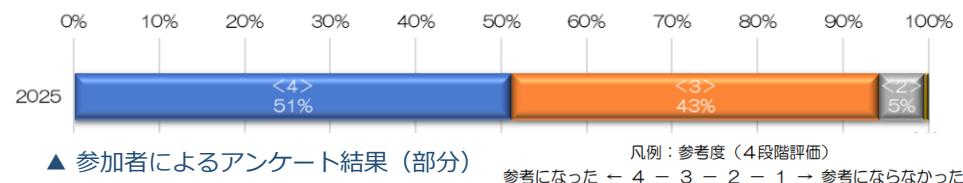
前田建設工業 水谷基樹



BIM 啓発専門部会 吉原委員  
質疑応答（浅沼組、鴻池組、熊谷組、前田建設工業）

▲ 登壇者による発表・パネルディスカッションの状況

### ◎ 参加者の約94%が「参考になった」と回答



### ◎ 良かった点

- ・ 実例を元に定期的にこのような活用事例を共有いただけることは大変意義があることかと思います。課題解決の一助になりました。
- ・ 発表スライドが統一されていたので、各社それぞれの事例を発表していても一定の観点から比較ができるセミナーとなっていたので大変参考になりました。

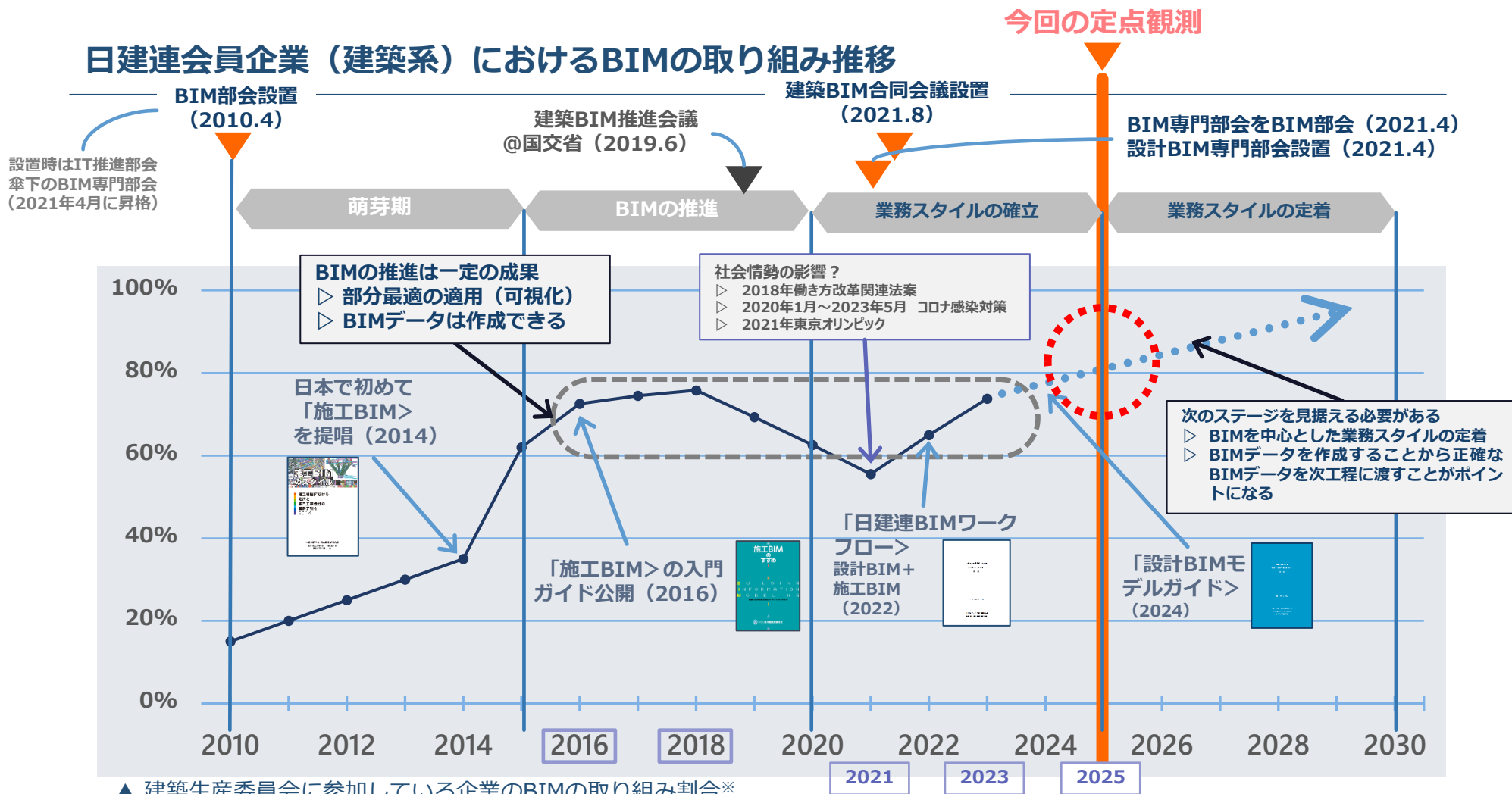
### ◎ その他の感想

- ・ BIM 導入を考えてはいますが、中小も含めた建設業全般にもう少し広く浸透すると導入しやすくなると思いました。
- ・ 専門工事会社との BIM 連携ができるように業界全体で取り組むべきだと感じました。
- ・ 設計段階で BIM 案件ではなくても施工段階で BIM を実施するケースもあるため、請負時の BIM 契約を明白にして頂きたい。

# ⑥ 日建連会員企業 | BIM動向調査

日建連会員企業（建築本部および本部直下の委員会参加）の動向を隔年で調査・分析を進めています。取り組みは進んでいるものの限られたプロジェクトでの適用に留まっていることも明らかになっています。

## 日建連会員企業（建築系）におけるBIMの取り組み推移



※ 取組みの割合：BIM部会の調査年：2016年、2018年、2021年、2023年 | その他の年：前後の割合を踏まえた推測値

調査の際に未回答の企業は取組みをしていないとして集計した

公開予定：2026年6月

※日建連BIM部会HP



# 参考 | 建築BIM環境整備部会との連携

「ガイドライン改訂WG」（2025年度設置）に参加しています。日建連では積み残し課題を先行して検討を進めており、いままでの成果物などを参照していただきました。今後も課題解決に向けた活動を進めます。

## ガイドライン改訂WGに参画し、日建連成果物に準拠した意見を発信しています

### ① LOD (Level of detail/development) / LOI (Level of Information)

■ 参考資料1：紹介する指標の例

指標名	指標の名称	作成主体	概要・特徴
LOD Specification	LOD (Level of Development)	BIM Forum (米国)	モデル要素の形状・構造・機能の明確化を、LOD 100、LOD200等の段階で表現。 国際的に広く参照される指標。
ISO 1912	LOI (Level of Information)	ISO (国際)	LOI (情報レベル) とは「図面」に対して付与される情報。 図面情報とモデル情報に付与される情報とを区別し、互換性のある形で表現される。
ISO 19160	LOI (Level of Information)	国際標準化機構	ISO 19160はLOIの概念から発展。 要素要素を定義するだけでなく要素間の関係性によって詳細度を決定することが可能な指標。
設計BIMモデルガイドライン (第1版)	-	設計協会	オブジェクト別に、要素ステージ毎の仕様・形状情報の明確化を目的として作成された指標。 「設計BIMモデルガイドライン」(国土交通省大臣官庁官報第145号)に掲載されている設計BIMモデル(設計BIMモデル)が参照されている。日本の設計BIMモデルの標準。
設計BIMモデル作成ガイド (第3版)	-	日本建設業連合会	設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第1版)

### ② BIMマネージャー等

■ 参考資料1：BIMに係る職務の役割内容についての整理

役割	1 BIMマネージャー等の役割	2 BIMマネージャー等の役割	3 BIMマネージャー等の役割	4 BIMマネージャー等の役割	5 BIMマネージャー等の役割
1 BIMマネージャー等の役割	設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。	設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。	設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。	設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。	設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。 設計BIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第1版)

### ③ EIR (Employer's Information Requirements) / BEP (BIM Execution Plan)

■ 参考資料1：EIR/EIRに盛り込むべき項目 (案)

項目	内容
プロジェクト概要	建設目的、建設内容、建設期間、建設予算、建設リスク等。
建設目的	建設目的、建設内容、建設期間、建設予算、建設リスク等。
建設内容	建設目的、建設内容、建設期間、建設予算、建設リスク等。
建設期間	建設目的、建設内容、建設期間、建設予算、建設リスク等。
建設予算	建設目的、建設内容、建設期間、建設予算、建設リスク等。
建設リスク	建設目的、建設内容、建設期間、建設予算、建設リスク等。

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第1版)

### ④ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

■ 参考資料1：設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

### ⑤ 竣工モデルの定義

■ 参考資料1：竣工モデルの定義

竣工モデルとは、竣工時に作成されるBIMモデル。竣工モデルの定義は、竣工時のBIMモデルの作成・管理・活用に関する指標。

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

### ⑥ BIMデータに係る権利

■ 参考資料1：BIMデータに係る権利

BIMデータに係る権利は、BIMデータの作成・管理・活用に関する指標。

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

### ⑦ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

■ 参考資料1：設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

### ⑧ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

■ 参考資料1：設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

▲ 設計BIMモデル作成ガイド (第3版)

▲ ガイドライン改定方針に日建連の活動成果が参照されている (部分)

◎ 今後も建築BIM推進会議などと足並みを揃え、日建連の成果物にも反映し連携をすすめます

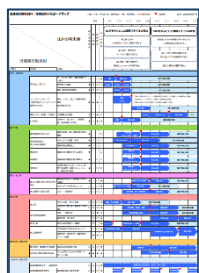
# おわりに | 今後の展開

2026年度は、今年度に公開されるビジョンやガイドラインの方向性を含めて、ターニングポイントになる年度と考えています。次世代に向けて討議を進めることができるように改訂作業や活動体制を整えていきます。

## 2025年度の主な活動

- ◎ 「日建連BIMセミナー2025」において会員企業19社の事例発表会開催（2025年6月）
- ◎ 「施工BIMの活用ガイド」（第4版）の制作・公開（2026年3月予定）
- ◎ 「設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー 鉄骨工事編」の制作・公開（2026年3月予定）
- ◎ 「設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー」（第4版）のフロントローディング項目を加筆・修正（2026年6月公開予定）
- ◎ 日建連会員企業における「BIM動向調査」（隔年）（2026年6月公開予定）

## 日建連BIMロードマップと「長期ビジョン2.0」や国交省「BIMガイドライン」との整合性確保



▲ BIMロードマップ ▲ 日建連の長期ビジョン2.0

- ◎ 日建連が改訂した「長期ビジョン2.0」や「生産性推進要綱2.0」などとの整合性を確保した「日建連BIMロードマップ」の見直し
- ◎ 国交省BIMガイドライン（第3版）との整合性を確保した「設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー」の見直し

# 各種資料の入手先 | 日建連 - BIM部会HP



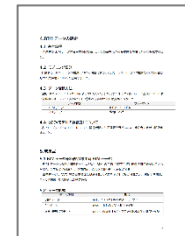
▲ BIM部会  
(日建連HP)

▲ ロードマップ



▲ BIMモデル承認 (鉄骨FAB)

▲ BIM実態調査2023



▲ EIR/BEP

日建連 - BIM部会HP

ARCHITECTURE 建築

ホーム > 建築 > BIM部会

## BIM部会

2010年前後から始まった社会のデジタル化は、わたしたちの業務を大きく変革しようとしています。近年においては、建設業における中長期的な担い手確保や育成に向けた働き方改革・生産性向上の推進に合わせて、BIMの活用に至る期待が集まり始めており、戦略的に導入を進める企業が随分とあります。BIMは建築物のライフサイクルで、一貫して情報を活用する仕組みを構築することが求められてきた一方、施工者として施工段階から取り組みを始めても大きな効果を期待できることが、様々な事例などで明らかにされてきました。今後は施工BIMの在り方を確立するとともに、設計BIMや維持管理BIMとの情報連携による一貫した情報の活用になることが期待されています。BIM部会では、施工BIMに関する標準策定やそれらの啓発活動を通じて、施工BIMの活用により業界全体の生産性向上に寄与することを目指して活動を進めています。

最新ニュース

- 2024.11.05 「施工BIMのインパクト2024」講演資料を掲載しました **NEW** 【セミナー】
- 2024.06.19 「2024年度日建連BIMセミナー」を掲載しました 【セミナー】
- 2024.05.13 ★聴講募集★日建連BIMセミナーの開催について 【セミナー】
- 2023.12.05 「施工BIMのインパクト2023」講演資料を掲載しました 【セミナー】

部会紹介 | セミナー | 刊行物 | 報告書・その他資料 | 意見交換会議事録 | 設計/施工/設備/ICT/他



▲ 施工BIMの活用ガイド



▲ 設計施工一貫方式におけるBIMワークフロー



▲ 設計BIMモデルガイド

